

音便 確認テスト（イ・ウ・撥・促音便） 解答・解説

■ 解答・解説

問1 イ音便／「書いて」の「き」が「い」に変化したもの。

問2 「て」（接続助詞「て」）／動詞の連用形に「て」が続くとき、発音しやすくするためイ音便が起こる。

問3 イ音便／「聞いて」の「き」が「い」に変化したもの。

問4 ウ音便／形容詞「いみじく」の「く」が「う」に変化したもの。

問5 ウ音便／「思ひて」の「ひ」が「う」に変化したもの。

問6 （親のことを）思って／「思うて」は「思ひて」のウ音便で、現代語の「思って」にあたる。

問7 ウ音便／形容詞「たふとく（たうとく）」の「く」が「う」に変化したもの。なお「たふとく」自体はハ行表記で、後に「たうとう」とウ音便化する。ここでは元の連用形「たふとく」として扱う。

問8 たふとし（尊し）／形容詞「たふとし（尊し）」の連用形「たふとく」がウ音便で「たうとう」とも読まれる。

問9 撥音便／「読みて」の「み」が「ん」に変化し、下の「て」が「で」と濁音化したもの。

問10 「て（で）」（接続助詞「て」）／「て」が続くために撥音便が起こり、撥音「ん」に続くため「て」が「で」と濁る。

問11 撥音便／「飛びて」の「び」が「ん」に変化し、下の「て」が「で」と濁音化したもの。

問12 鳥が飛んで行くのを／「の」は主格を表し「鳥が」、「飛んで」はそのまま現代語と同じ。

問13 惜しく／形容詞「惜し」の連用形「惜しく」の「く」がウ音便化して「惜しう」となった。

問14 促音便／「走りて」の「り」がつまる音（っ）に変化したもの。

問15 「て」（接続助詞「て」）／「て」が続くために促音便が起こる。

問16 促音便／「取りて」の「り」がつまる音（っ）に変化したもの。

問17 明く（あかく）／形容詞「明し（あかし）」の連用形「明く」の「く」がウ音便化して「明う」となった。

問18 撥音「ん」の音に続くと、後の清音「て」は発音上濁って「で」となるため。（同様に「が・ば」なども濁音化する。）

問19 イ音便／「吹きて」の「き」が「い」に変化したもの。

問20 立ちて／「立ちて」の「ち」が促音便化して「立つて」となった。

問21 ん（撥音「ん」）／表記されない撥音便を撥音便の無表記という。「多かるなり」→「多かんなり」→「多かなり」と、撥音「ん」が表記から消えている。

問22 ①書いて ④思ひて ⑥読みて ⑨走りて／いずれも動詞の連用形に「て」が付いた形に戻す。

問23 ②聞きて ⑩取りて ⑫積もりて ⑬吹きて／撥音便・促音便も、もとは「みて・りて・きて」の形である。

問24 撥音便／活用語に「ん」の音が現れるのは撥音便のみである。

問25 (1) イ音便 (2) ウ音便 (3) 促音便
